

Retek® Data Warehouse 10.1



中間層インストールガイド



企業本部

Retek Inc.

Retek on the Mall

950 Nicollet Mall

Minneapolis, MN 55403

888.61.RETEK (toll free US)

+1 612 587 5000

本マニュアルで説明されるソフトウェアは、ライセンス契約のもとに提供され、その契約条件に従う場合にのみ使用できます。

欧州本部

Retek

110 Wigmore Street

London

W1U 3RW

United Kingdom

電話番号 (代表)

+44 (0)20 7563 4600

本マニュアルの情報は予告なく変更されることがあります。

Retek は内容の保全を図るため、製品資料を読み取り専用フォーマットで提供します。Retek カスタマサポートは、Retek の許可なく変更された資料についてはサポート致しかねます。

セールス窓口

+44 (0)20 7563 46 46

Fax: +44 (0)20 7563 46 10

Retek® Data Warehouse™ は、Retek Inc. の商標です。

Retek、および Retek のロゴは、Retek Inc. の登録商標です。

Retek 日本オフィス

〒107-0061

東京都港区

北青山 3-6-7

青山パラシオタワー 11F

+81 (0)3 5778-7620

Fax: +81 (0)3 5778-7640

この情報は未公開であり、機密保持契約、企業秘密、およびその他の法律によって保護されています。出版に際しては、次の事項に準拠するものとします。

©2002 Retek Inc. All rights reserved.

本マニュアルで言及されている他の製品名はすべて、各社の商標または登録商標であり、それに準じた取り扱いをする必要があります。

米国にて印刷。

カスタマサポート

カスタマサポート時間帯:

カスタマサポートは、電子メール、電話、Web アクセスによって 365 日、週 7 日間 (24 時間) ご利用いただけます。

選択したサポートオプション (スタンダード、プラス、プレミアム) によっては、特定のサービスの提供回数が制限される場合があります。重大度 1 の (深刻な) 問題の処理は、週 7 日間 (24 時間) ベースで行われ、問題が解決されるまで、アクティブメンテナンス中のすべてのクライアントは継続的に監視されます。

お問い合わせ方法 連絡先

インターネット (ROCS)	www.retek.com/support Retek 社のお客様向け Web サイトです。問題に関する最新の情報を参照することができます。
電子メール	support@retек.com
電話	米国およびカナダ: 1-800-61-RETEK (1-800-617-3835) その他の地域: +1 612-587-5800 EMEA: 011 44 1223 703 444 アジア太平洋: 61 425 792 927
メール	Retek カスタマサポート Retek on the Mall 950 Nicollet Mall Minneapolis, MN 55403

カスタマサポートにご連絡いただく前に、下記の内容をご確認ください。

- 製品のバージョンおよびプログラム/モジュールの名前
- 具体的、技術的な症状 (業務に与える影響を含む)
- 問題の詳細な再現手順
- 正確なエラーメッセージ
- 問題の操作を確認できるスクリーンショット (手順ごと)

目次

第 1 章	サーバーおよびシステムの要件	1
	MicroStrategy Intelligence Server	1
	Oracle ユーザ	1
	IBM DB2 ユーザ	1
	Teradata	1
	MicroStrategy Desktop の要件 (管理者)	1
	Oracle ユーザ	1
	IBM DB2 ユーザ	2
	Teradata	2
	MicroStrategy Desktop の要件 (ユーザ)	2
第 2 章	RDW 中間層インストール	3
	クライアント ODBC のインストール	3
	Oracle クライアントのインストール	3
	IBM DB2 クライアントのインストール	5
	NCR Teradata クライアントのインストール	7
	MicroStrategy Desktop (管理者) のインストール	9
	構成ウィザード	9
	RDW 10.1 Workbench のインストール	11
	MicroStrategy Intelligence Server のインストール	12
	構成ウィザード	13
	RDW 10.1 Workbench プロジェクトの登録 (3 層接続のみ)	14
	MicroStrategy Desktop のインストール (ユーザ)	15
	RDW ユーザ、ユーザグループ、およびセキュリティの役割	16
	ユーザ	16
	ユーザグループ	16
	セキュリティの役割	17
付録 A	時間	19
	対象期間 (4-5-4)	19
	対象期間 (13 期間)	19
付録 B	子要素アイテム	23
	子要素アトリビュート	23
	子要素タイプの変更	24

第 1 章 サーバーおよびシステムの要件

本マニュアルでは、MicroStrategy 7 製品のインストールおよびメタデータリポジトリの設定の方法について説明します。サーバーおよびシステムの要件、クライアントのインストール方法、および ODBC の設定方法が記載されています。

MicroStrategy Intelligence Server

MicroStrategy Intelligence Server システムの要件の完全なリストおよびサイズ変更要因については、『MicroStrategy Intelligence Server、Web、Architect、Agent、および Administrator のインストールと設定ガイド』を参照してください。

MicroStrategy Intelligence Server のソフトウェア要件は以下のとおりです。

Oracle ユーザ

- Oracle 9i Client 9.0.1.1.1
- Oracle 9i (32 ビット) ODBC Driver 9.0.1.0.1
- MicroStrategy Intelligence Server 7.1.6

IBM DB2 ユーザ

- IBM DB2 Run-Time Client 7.1
- IBM DB2 (32 ビット) ODBC Driver 7.1.0.4
- MicroStrategy Intelligence Server 7.1.6

Teradata

- Teradata Client for Windows 9x/NT/2000
- Teradata (32 ビット) ODBC Driver 3.0.0.0
- MicroStrategy Intelligence Server 7.1.6

MicroStrategy Desktop の要件 (管理者)

MicroStrategy Desktop (管理者) の完全なリストおよびサイズ変更要因については、『MicroStrategy 7 Intelligence Server、Web、Architect、Agent および Administrator のインストールと設定ガイド』を参照してください。

管理者のワークステーションのソフトウェア要件は、以下のとおりです。

Oracle ユーザ

- Oracle 9i Client 9.0.1.1.1
- Oracle 9i (32 ビット) ODBC Driver 9.0.1.0.1
- MicroStrategy Desktop および Administrator 7.1.6

IBM DB2 ユーザ

- IBM DB2 Run-Time Client 7.1
- IBM DB2 (32 ビット) ODBC Driver 7.1.0.4
- MicroStrategy Desktop および Administrator 7.1.6

Teradata

- Teradata Client for Windows 9x/NT/2000
- Teradata (32 ビット) ODBC Driver 3.0.0.0
- MicroStrategy Desktop および Administrator 7.1.6

注: クライアント側 ODBC は、2 層接続、つまりデータベースに直接接続する場合にのみ必要です。管理者が必要とされるのは、プロジェクトを複製するためにダイレクトモードで接続する場合のみです。

MicroStrategy Desktop の要件 (ユーザ)

MicroStrategy Desktop (ユーザ) の完全なリストおよびサイズ変更要因については、『MicroStrategy 7 Intelligence Server、Web、Architect、Agent および Administrator のインストールと設定ガイド』を参照してください。

エンドユーザクライアントのワークステーションのソフトウェア要件は、以下のとおりです。

- MicroStrategy 7.1.6 Desktop

注: クライアント側 ODBC は、3 層接続、つまりサーバーモードで接続する場合にのみ必要です。サーバーモードは、MicroStrategy Desktop を通して接続する一般的なユーザに推奨される接続方法です。

第 2 章 RDW 中間層インストール

この章では、MicroStrategy Intelligence Server および Desktop の一般的なインストール手順および推奨される設定事項について説明します。手順の詳細な説明については、『MicroStrategy 7 Intelligence Server、Web、Architect、Agent、および Administrator のインストールと設定ガイド』を参照してください。この章では、RDW 10.1 Workbench メタデータプロジェクトへの接続に必要な手順についても説明します。次の手順を必ず所定の順序で実行してください。

クライアント ODBC のインストール

データベースクライアント ODBC は、MicroStrategy Intelligence Server および MicroStrategy Desktop 管理者のマシンにインストールする必要があります。一般的な MicroStrategy Desktop ユーザには、Intelligence Server を介して 3 層接続することをお勧めします。その場合、データベースクライアント ODBC は必要ありません。

注: 標準的なクライアントのインストール方法を次に示します。インストール方法は、データベースやバージョンによって異なる場合があります。これは推奨される手順であり、環境によって異なる場合があります。

Oracle クライアントのインストール

MicroStrategy 認定 32 ビット ODBC のインストール

MicroStrategy Intelligence Server とともに使用される MicroStrategy 認定 32 ビット Oracle ODBC は、MicroStrategy 7 CD に含まれていません。Oracle 9.0.1 Client Software CD を使用するか、Oracle に問い合わせで認定ドライバを取得してください。

認定 32 ビット ODBC ドライバ

Oracle 9.0.1(9i) データベース用の認定 32 ビット Client および ODBC ドライバ

32 ビット Oracle9i Client および ODBC Driver 9.0.1.0.1 をインストールします。

- 1 Oracle 9i Client Software CD から setup.exe を実行します。
- 2 ようこそ画面で **[次へ]** をクリックして、インストールを開始します。
- 3 **[次へ]** をクリックして、既定の Oracle ホーム設定を承認します。
- 4 次の画面で [カスタムインストール] を選択し、**[次へ]** をクリックします。

注: この時点でインストーラがエラーを表示した場合、別の Oracle バージョンに対して作成された元の Oracle ホームにインストールしようとしていないかを確認します。その場合は **[前へ]** をクリックし、Oracle9i ホームに別のディレクトリを指定して、そこに製品をインストールします。

- 5 Oracle9i Client 9.0.1.1.1 の次の製品を選択します。
 - [Oracle Programmer] を展開し、[Oracle ODBC Driver 9.0.1.0.1] 以外の選択をすべて解除します。
- 6 **[次へ]** をクリックします。

- 7 必要なパスおよびディスク領域が正しいことを確認します。**[次へ]** をクリックします。
- 8 選択したコンポーネントを確認し、**[インストール]** をクリックします。
- 9 インストールが完了すると、Net Configuration Assistant が開きます。**[キャンセル]** をクリックします。
- 10 **[終了]** をクリックしてインストールを終了します。
- 11 メッセージの指示があった場合はコンピュータを再起動します。

TNS 名のファイル

これは、ネットサービス名にマッピングされる接続記述子を含んでいるファイルです。ファイルはすべてのクライアントまたは個々のクライアントが使用できるように、中央またはローカルで保守できます。ファイルがネットワーク上にある場合は、tnsnames.ora ファイルの最新バージョンをディレクトリ c:\<oracle home>\network\admin にローカルにコピーします。これは、サーバーマシン、およびデータベースに直接接続しなければならないすべてのマシンで、ローカルに実行する必要があります。

このファイルの詳細については、Oracle マニュアルの『Net Services 管理者ガイド』を参照してください。

32 ビット ODBC システム DSN の確立

- 1 [スタート] メニューから、[設定]、[コントロールパネル] の順に選択します。**[管理ツール]** をダブルクリックします。**[データソース (ODBC)]** をダブルクリックします。
- 2 [システム DSN] タブをクリックします。
- 3 **[追加]** をクリックします。
- 4 前の手順でインストールした Oracle ドライバを選択します。**[完了]** をクリックします。
- 5 DSN の名前とデータウェアハウスデータベースの接続文字列を入力します。(下の例を参照)
- 6 **[OK]** をクリックします。

重要: Intelligence Server のデータウェアハウス DSN は、データベースに直接接続する必要がある各クライアントマシンで使用されるものと整合性がなければなりません。この情報は、プロジェクトソースのメタデータに格納されるため、すべてのユーザに対して一度だけ定義します。

例:

Retek データウェアハウス

データソース名: RDW10

名称: RDW 10 データベース

TNS サービス名: RDW10

注: データウェアハウスデータベースの作成は、接続を確立するために必要です。

- 7 **[接続テスト]** をクリックして、ODBC 接続をテストします。

IBM DB2 クライアントのインストール

MicroStrategy 認定 32 ビット ODBC のインストール

MicroStrategy Intelligence Server とともに使用される MicroStrategy 認定 32 ビット DB2 ODBC は、MicroStrategy 7 CD に含まれていません。DB2 Application Development Client バージョン 7.1 CD を使用するか、IBM に問い合わせ認定ドライバを入手してください。

認定 32 ビット ODBC ドライバ

DB2 7.1/7.2 データベース用の認定 32 ビット Client および ODBC ドライバ

IBM DB2 Run-Time Client 7.1 および IBM DB2 (32 ビット) ODBC Driver 7.1.0.4 をインストールします。

- 1 DB2 Application Development Client バージョン 7.1 CD から setup.exe を実行します。
- 2 インストールダイアログボックスの [インストール] をクリックします。
- 3 [DB2 Application Development Client] を選択して、**[次へ]** をクリックします。
- 4 [カスタマイズ] を選択して、**[次へ]** をクリックします。
- 5 以下のコンポーネントを選択します。
 - コンポーネントプロトコル
サブコンポーネント – TCP/IP
 - アプリケーション開発インターフェイス
サブコンポーネント – JDBC サポート、IBM enhanced Java Runtime Environment、および ODBC サポート
 - Base DB2 Client サポート
 - アドミニストレーションおよび構成ツール
サブコンポーネント – クライアント定義アシスタント
- 6 **[次へ]** をクリックしてから、**[次へ]** を再度クリックします。
- 7 **[完了]** をクリックし、設定を終了します。
- 8 メッセージの指示があった場合はコンピュータを再起動します。

32 ビット ODBC システム DSN の確立

- 1 [スタート] メニューから、[プログラム]、[IBM DB2]、[クライアント定義アシスタント] の順に選択します。
- 2 **[追加]** をクリックします。
- 3 [ネットワークを検索] を選択します。**[次へ]** をクリックします。
- 4 "既知のシステム" フォルダを展開し、DB2 データベースの場所を探します。
- 5 ターゲットデータベースを選択します。**[次へ]** をクリックします。
- 6 任意のコメントを追加します。**[次へ]** をクリックします。
- 7 **[完了]** をクリックし、設定を終了します。

重要: Intelligence Server のデータウェアハウス DSN は、データベースに直接接続する必要がある各クライアントマシンで 사용되는ものと整合性がなければなりません。この情報は、プロジェクトソースのメタデータに格納されるため、すべてのユーザに対して一度だけ定義します。

- 8 **[テスト]** をクリックして、ODBC 接続をテストします。

DB2 ユーティリティのバインド

- 1 [スタート] メニューから、[プログラム]、[IBM DB2]、[クライアント定義アシスタント] の順に選択します。
- 2 DB2 データベース (上記手順で追加) を選択します。**[バインド]** をクリックします。
- 3 [Bind DB2 Utilities (DB2 ユーティリティのバインド)] がまだ選択されていない場合は選択します。**[続行]** をクリックします。
- 4 メタデータ所有者の [ユーザ] および [パスワード] を入力します (RDW10MD など)。**[OK]** をクリックします。
- 5 [CLI/ODBC サポート] のみを選択します。**[OK]** をクリックします。
- 6 [バインド結果] ページが完了したら、**[閉じる]** をクリックします。
- 7 **[閉じる]** をクリックしてバインドを完了したら、クライアント定義アシスタントを閉じます。

NCR Teradata クライアントのインストール

MicroStrategy 認定 32 ビット ODBC のインストール

MicroStrategy Intelligence Server とともに使用される MicroStrategy 認定 32 ビット Teradata ODBC は、MicroStrategy 7 CD に含まれていません。NCR Teradata V2R5 Client Software CD を使用するか、NCR に問い合わせて認定ドライバを入手してください。

認定 32 ビット ODBC ドライバ

NCR Teradata V2R5 データベース用の認定 32 ビット Client および ODBC ドライバ - 32 ビット NCR Teradata Client および ODBC Driver 3.0.0.0 をインストールします。

- 1 システム上で現在動作している Windows プログラムをすべて終了し、ウイルス対策ソフトウェアをすべて無効にします。
- 2 Teradata Client for Windows 9x/NT/2000 の古いバージョンをすべてアンインストールします。Teradata Program Group の [アンインストール] アイコンをクリックするか、[コントロールパネル] の [アプリケーションの追加と削除] アイコンを使用します。
- 3 配布 CD を CD ドライブに挿入し、ライセンスフロッピーをフロッピードライブに挿入します。メインメニューが表示されます。

メインメニューが表示されない場合は、Windows エクスプローラを使用し、CD-ROM ドライブでファイル TUF.EXE の場所を見つけてダブルクリックします。
- 4 [製品のインストール] アイコンをクリックします。
- 5 設定言語を選択します。サポートされている設定言語は、英語と日本語だけです。
- 6 ようこそ画面で **[次へ]** をクリックします。
- 7 ライセンス契約を読みます。ライセンス契約に同意してインストールを続行する場合は、**[はい]** をクリックします。
- 8 目的のオプションを強調表示して、設定タイプを選択します。**[次へ]** をクリックします。**[標準]** 設定を使用し、すべてのライセンス製品を CD-ROM からインストールします。
- 9 ライセンスファイル (license.txt) を選択して、**[開く]** をクリックします。
- 10 CD-ROM からインストールする場合、ライセンスファイルは添付のフロッピーディスクに含まれています。フロッピーディスクをフロッピードライブに挿入します。適切なフロッピーがドライブ A に挿入されていることを確認します。
- 11 インストール先フォルダを選択し、**[次へ]** をクリックします。
- 12 プログラムフォルダを選択し、**[次へ]** をクリックします。
- 13 [メソッドのインストールの選択] ウィンドウで、**[ODBC]** をクリックします。これにより、Teradata に必要なドライバがインストールされます。

- 14 ようこそ画面で、**[次へ]** をクリックします。
- 15 インストール先フォルダを選択し、**[次へ]** をクリックします。
- 16 **[標準]** インストールを選択します。
- 17 **[プログラムフォルダの選択]** ウィンドウで、**[次へ]** をクリックします。
- 18 **[ファイルのコピー開始]** ウィンドウで、**[次へ]** をクリックします。
- 19 ウィザードによって、コンポーネントがインストールされます。**[完了]** をクリックします。
- 20 メッセージの指示があった場合はコンピュータを再起動します。

32 ビット ODBC システム DSN の確立

- 1 **[スタート]** メニューから、**[設定]**、**[コントロールパネル]** の順に選択します。**[管理ツール]** をダブルクリックします。**[データソース (ODBC)]** をダブルクリックします。
- 2 **[システム DSN]** タブをクリックします。
- 3 **[追加]** をクリックします。
- 4 前の手順でインストールした Teradata ドライバを選択します。**[完了]** をクリックします。
- 5 設定ダイアログボックスが表示されます。それぞれのシステムのパラメータを入力します。
 - **[データソース名]** に名前を入力します。
 - **[Teradata Server 情報]** に IP アドレスを入力し、**[エイリアス名 (別名)]** で IP アドレスを解決しない ☐ チェックボックスをオンにします。

注: ODBC の設定は、OS バージョンやデータベースタイプによって異なります。

- 6 **[オプション]** を選択して以下のチェックボックスをオンにします。
 - 列名を使用
 - クワイエットモードで実行
 - 解析の無効化
- 7 **[OK]** をクリックします。
- 8 **[OK]** を再度クリックします。
- 9 **[OK]** をクリックして ODBC ダイアログボックスを閉じます。

重要: Intelligence Server のデータウェアハウス DSN は、データベースに直接接続する必要がある各クライアントマシンで使用されるものと整合性がなければなりません。この情報は、プロジェクトソースのメタデータに格納されるため、すべてのユーザに対して一度だけ定義します。

注: データウェアハウスデータベースの作成は、接続を確立するために必要です。

- 10 **[スタート]** メニューの **[Queryman]** を使用して、ODBC 接続をテストします。**[ユーザ名]** と **[パスワード]** 以外はすべて空白のままにします。

MicroStrategy Desktop (管理者) のインストール

MicroStrategy インストール CD-ROM には、簡単なインストールプログラムが含まれています。これは、MicroStrategy Desktop および Administrator をインストールするときに使用する必要があります。

注: MicroStrategy Desktop および Administrator のインストール手順の詳細については、『MicroStrategy 7 Intelligence Server、Web、Architect、Agent、および Administrator のインストールと設定ガイド』を参照してください。

インストールプロセスを開始する前に、Microsoft Office ショートカットバーのすべてのアプリケーションが閉じていることを確認し、サービスとして動作しているすべてのアプリケーションを停止します。また、インストールの前に、ウイルス対策プログラムやディスク監視システムをすべて無効にします。これは、ファイルの登録を正常に行うために必要です。

データベース ODBC クライアントをインストールしたら、次の手順を開始します。

MicroStrategy Desktop のインストール

- 1 MicroStrategy CD を CD-ROM ドライブに挿入し、インストールのようこそ画面が自動的に表示されるまで少し待ちます。
- 2 ようこそ画面が表示されない場合は、CD から `setup.exe` を実行します。
- 3 メッセージの指示があった場合はインストールキーを入力します。
- 4 [標準インストール] を選択します。
- 5 [MicroStrategy Desktop および Administrator] のみを選択します。
- 6 **[次へ]** をクリックします。
- 7 メッセージの指示があった場合はコンピュータを再起動します。

構成ウィザード

MicroStrategy 7 Desktop をインストールしたら、[スタート]、[プログラム]、[MicroStrategy 7] の順に選択し、[構成ウィザード] をクリックします。

メタデータリポジトリの設定

新規メタデータリポジトリ (MicroStrategy テーブル) を作成するには 2 つの方法があります。次のいずれかの方法です。

- 1 メタデータリポジトリ (MicroStrategy テーブル) を RDW 10.1 インストール CD からインポートする (詳細は『Retek® Data Warehouse 10.1 データベースインストールガイド』)。

または

- 2 MicroStrategy 構成ウィザードを使用して、新規リポジトリを作成する。
- 2 番目のオプションを選択した場合、次の手順に従います。そうでない場合は、このマニュアルの次のセクション「MicroStrategy Intelligence Server のインストール」(13 ページ)に進んでください。

注: この手順には、メタデータデータベースユーザおよびパスワードが必要です。このユーザにはテーブルを作成する権限が必要であり、ユーザは固有のリポジトリを所有することになります。

メタデータリポジトリを設定すると、構成ウィザードによって以下のページが表示されます。

- メタデータリポジトリ設定作業
- メタデータリポジトリの ODBC データソース名
- メタデータリポジトリおよび統計テーブルの作成
- サマリー

メタデータリポジトリを設定するための手順を実行

- 1 **[次へ]** をクリックします。MicroStrategy 7 メタデータテーブルだけを作成したい場合は、統計テーブルを作成するオプションの選択を解除します。
- 2 既存の ODBC DSN をドロップダウンメニューから選択するか、**[新規]** をクリックして新しい DSN を作成します。メタデータデータベースユーザ名およびパスワード (rdw10md など) を入力します。
- 3 **[次へ]** をクリックして作業を続行します。
- 4 適切なデータベースバージョンを選択し、**[次へ]** をクリックしてメタデータテーブルを作成します。
- 5 メタデータリポジトリの権限とシノニムを確立するには、『Retek® Data Warehouse 10 データベースインストールガイド』の「RDW ユーザ権限の設定」のセクションを参照してください。**作業を続行するには、この手順を完了する必要があります。**

MicroStrategy プロジェクトソースの設定

RDW 10.1 Workbench を指すプロジェクトソースを次のように作成します。

- ☉ **ナビゲート:** [スタート]、[プログラム]、[MicroStrategy 7]、[Desktop] の順に選択して、MicroStrategy Desktop を起動します。
 - 1 最初のログイン画面をキャンセルします。
 - 2 [Desktop] メニューバーから、[ツール]、[プロジェクトソースマネージャ] の順に選択します。
 - 3 **[追加]** をクリックします。
 - 4 2 層、またはダイレクト接続の場合
 - a プロジェクト名 (RDW 10.1 Data Warehouse – Direct など) を入力します。
 - b 接続モードに [ダイレクト] を選択します。
 - c メタデータデータベースシステムユーザ (rdw10sys など) の ODBC DSN、RDW システムユーザ名、およびパスワードを入力します。
 - d **[OK]** をクリックします。

注: 2 層接続は、プロジェクト複製の場合にのみ必要です。RDW メタデータインストールウィザードでは、MicroStrategy 複製プロセスを使用するため、2 層接続が必要になります。

- 5 3 層、つまりサーバー接続の場合、次の手順に従います (**この手順は Intelligence Server のインストール後に完了できます**)。
 - a プロジェクト名 (RDW 10.1 Data Warehouse – Direct など) を入力します。
 - b 接続モードに [サーバー] を選択します。
 - c Intelligence Server が動作しているサーバーマシン名を入力します。
- 注:** これはサーバーのマシン名であり、Intelligence Server の定義名ではありません。
- d **[OK]** をクリックします。
- 6 これで、管理者としてパスワードなしで RDW 10.1 プロジェクトソースにログインできるようになりました。可能であれば、この管理者ユーザにパスワードを追加することをお勧めします。

RDW 10.1 Workbench のインストール

RDW 10.1 インストール CD-ROM には、簡単なインストールプログラムが含まれています。これは、RDW 10.1 Workbench をインストールするときに使用する必要があります。RDW Workbench は MicroStrategy プロジェクトと同義であり、Retek データウェアハウスのメタデータオブジェクト (レポートやメトリックなど) をすべて含んでいます。

インストール前の要件

- 既存のメタデータリポジトリ (MicroStrategy テーブル)
- ローカル MicroStrategy Desktop のインストール

以下を必要とします。

- 2 層 (ダイレクト) 接続プロジェクトソース。存在しない場合は、ウィザードによってインストール中に作成できます。
- 上記のプロジェクトソースに対する Micro Strategy 管理者のログイン ID およびパスワード。新規の MicroStrategy メタデータリポジトリに対する既定のログイン ID は「Administrator」であり、パスワードはありません。

RDW メタデータインストールウィザードは、RDW 10.1 インストール CD で \Install\rdw10.0\metadata\ の下にあります。setup.exe を実行してウィザードを開始します。

注: ウィザードは MicroStrategy ユーティリティを使用して RDW Workbench をコピーまたは複製します。プロジェクト複製は冗長なプロセスです。MicroStrategy 複製ユーティリティは、現在処理中のオブジェクトのタイプと数に基づいて残り時間を見積もり、定期的に残り時間を更新します。

注: 最初に 3 層プロジェクトにログインする場合、プロジェクトを表示するための登録が必要です。次の「RDW 10 Workbench プロジェクトの登録」のセクションを参照してください。

重要: アドミニストレーションによってアクセスできる初期のデータベースインスタンス Database Instance Manager は、既定の rdw10sys ユーザ名またはパスワードへの変更を反映するために更新する必要があります。

重要: RDW 10.1 は、小売 4-5-4 または 13 カレンダーをサポートします。既定カレンダーは小売 4-5-4 です。13 期間カレンダーを実装するための更新が必要なメタデータオブジェクトのリストについては、このマニュアルの「付録 A」を参照してください。

重要: RDW 10.1 では、アトリビュート名の中に子要素タイプがハードコードされています。これらのアトリビュートの追加または変更の詳細については、付録 B を参照してください。

MicroStrategy Intelligence Server のインストール

MicroStrategy Intelligence Server のインストールには、ネットワーク接続が必要です。この手順の詳細については、Microsoft サーバーのインストールマニュアルを参照してください。適切なネットワークアクセスについては、システム管理者に問い合わせてください。

MicroStrategy インストール CD-ROM には、簡単なインストールプログラムが含まれています。これは、MicroStrategy Intelligence Server をインストールするときに使用する必要があります。

注: MicroStrategy Intelligence Server のインストール手順の詳細については、『MicroStrategy 7 Intelligence Server、Web、Architect、Agent、および Administrator のインストールと設定ガイド』を参照してください。

インストールプロセスを開始する前に、Microsoft Office ショートカットバーのすべてのアプリケーションが閉じていることを確認し、サービスとして動作しているすべてのアプリケーションを停止します。また、インストールの前に、ウイルス対策プログラムやディスク監視システムをすべて無効にします。これは、ファイルの登録を正常に行うために必要です。

データベース ODBC クライアントをインストールしたら、次の手順を開始します。

MicroStrategy Intelligence Server のインストール

MicroStrategy CD を CD-ROM ドライブに挿入し、インストールのようこそ画面が自動的に表示されるまで少し待ちます。

ようこそ画面が表示されない場合は、CD から setup.exe を実行します。

- 1 メッセージの指示があった場合はインストールキーを入力します。
- 2 標準インストールを選択します。
- 3 [MicroStrategy Intelligence Server] 以外のオプションの選択をすべて解除します。
- 4 **[次へ]** をクリックします。
- 5 メッセージの指示があった場合はコンピュータを再起動します。

構成ウィザード

MicroStrategy 7 Intelligence Server をインストールしたら、Intelligence Server マシンで [スタート]、[プログラム]、[MicroStrategy 7] の順に選択し、[構成ウィザード] をクリックします。

MicroStrategy Intelligence Server の定義の設定

MicroStrategy Intelligence Server Definition を設定すると、構成ウィザードによって以下のページが表示されます。

- メタデータリポジトリへの接続
- ユーザ認証
- サーバー定義の作成、リンク、または削除
- サマリー

MicroStrategy Intelligence Server の定義の設定手順

- 1 [MicroStrategy Intelligence Server の定義] を選択します。**[次へ]** をクリックします。
- 2 既存の ODBC DSN をドロップダウンメニューから選択するか、**[新規]** をクリックして新しい DSN を作成します。RDW システムのユーザ名およびパスワード (rdw101sys など) を入力します。
- 3 メタデータリポジトリに接続するために使用する MicroStrategy ユーザ名およびパスワードを入力します。MicroStrategy Intelligence Server に初めて接続する場合は、パスワードなしで名前に "Administrator" を使用します。セキュリティ上の理由から、このパスワードを変更することをお勧めします。

注: 個々のユーザアカウント設定の手順の詳細については、『MicroStrategy 7 Administrator、Intelligence Server、および Web Administrator ガイド』の「ユーザマネージャ」セクションを参照してください。

- 4 [サーバー定義名] に入力し、[新規サーバー定義の作成] を選択します。
- 5 **[完了]** をクリックします。

MicroStrategy プロジェクトソースの設定 (オプション)

注: Intelligence Server マシンにプロジェクトソースを作成して直接使用できるようにしたほうが便利です。これはオプションです。プロジェクトソースも、以下のセクション (「MicroStrategy Desktop のインストール (管理者)」および「MicroStrategy Desktop のインストール (ユーザ)」) で作成できます。

プロジェクトソースを設定すると、構成ウィザードによって以下のページが表示されます。

- Desktop プロジェクトソース名および接続タイプ
- MicroStrategy Intelligence Server の場所
- プロジェクトソースセキュリティの設定
- サマリー

MicroStrategy プロジェクトソースを設定するために次の手順を実行

- 1 プロジェクトソースを選択します。**[次へ]** をクリックします。
- 2 プロジェクトソースの名前を入力します。[MicroStrategy Intelligence Server] を選択します。**[次へ]** をクリックします。
- 3 ドロップダウンボックスから、MicroStrategy Intelligence Server のマシン名を選択します。既定のポート番号を使用します。**[次へ]** をクリックします。
- 4 [標準認証] (既定) を選択します。**[次へ]** をクリックします。
- 5 **[完了]** をクリックします。
- 6 **[終了]** をクリックして、構成ウィザードを閉じます。

RDW 10.1 Workbench プロジェクトの登録 (3 層接続のみ)

RDW 10.1 Workbench プロジェクトをインストールしたら、プロジェクトソース用に登録する必要があります。プロジェクトは、登録するまでアクセスできません。

RDW 10.1 Workbench プロジェクトの登録

🔗 **ナビゲート:** [スタート]、[プログラム]、[MicroStrategy 7]、[Desktop] の順に選択して、MicroStrategy Desktop を起動します。

- 1 RDW 10.1 Workbench を含んでいるプロジェクトソースに Administrator として、または管理者権限を持ったユーザとしてログインします。

注: 個々のユーザアカウント設定の手順の詳細については、『MicroStrategy 7 Administrator、Intelligence Server、および Web Administrator ガイド』の「ユーザマネージャ」セクションを参照してください。

- 2 プロジェクトソースが選択されていることを確認し、Desktop メニューバーから [アドミニストレーション]、[プロジェクト]、[プロジェクトの登録] の順に選択します。
- 3 個々の RDW 10.1 Workbench を選択します。

- 4 **[OK]** をクリックします。このプロセスには多少時間がかかる場合があります。
- 5 登録を有効にするには、Intelligence Server の再起動が必要な場合があります。

MicroStrategy Desktop のインストール (ユーザ)

MicroStrategy インストール CD-ROM には、簡単なインストールプログラムが含まれています。これは、MicroStrategy Desktop をインストールするときに使用する必要があります。

注: MicroStrategy Intelligence Server のインストール手順の詳細については、『MicroStrategy 7 Intelligence Server、Web、Architect、Agent、および Administrator のインストールと設定ガイド』を参照してください。

インストールプロセスを開始する前に、Microsoft Office ショートカットバーのすべてのアプリケーションが閉じていることを確認し、サービスとして動作しているすべてのアプリケーションを停止します。また、インストールの前に、ウイルス対策プログラムやディスク監視システムをすべて無効にします。これは、ファイルの登録を正常に行うために必要です。

次の手順は、アプリケーションの動作、およびデータベース接続のために必要であり、この順序で実行します。

注: 管理者でない MicroStrategy Desktop ユーザは、3 層接続、つまりサーバーに接続するため、データベースクライアントソフトウェアをインストールする必要があります。

MicroStrategy Desktop のインストール

- 1 MicroStrategy CD を CD-ROM ドライブに挿入し、インストールのようこそ画面が自動的に表示されるまで少し待ちます。
- 2 ようこそ画面が表示されない場合は、CD から `setup.exe` を実行します。
- 3 メッセージの指示があった場合はインストールキーを入力します。
- 4 **[標準インストール]** を選択します。
- 5 **[MicroStrategy Desktop]** のみを選択します。
- 6 **[次へ]** をクリックします。
- 7 メッセージの指示があった場合はコンピュータを再起動します。

MicroStrategy プロジェクトソースの設定

RDW 10.1 Workbench を指すプロジェクトソースを次のように作成します。

- 1 プロジェクト管理者によりユーザアカウントが確立されていることを確認します。

注: 個々のユーザアカウント設定の詳細については、『MicroStrategy Administrator ガイド』の「ユーザマネージャ」セクションを参照してください。

- 2 **[スタート]**、**[プログラム]**、**[MicroStrategy 7]**、**[Desktop]** の順に選択して、Desktop を起動します。

- 3 [Desktop] メニューバーから、[ツール]、[プロジェクトソースマネージャ]の順に選択します。
 - 4 **[追加]** をクリックします。
 - 5 プロジェクト名 (たとえば、RDW 10.1 Data Warehouse) を入力します。
 - 6 接続モードのサーバーを選択します。
 - 7 Intelligence Server が動作しているサーバーマシン名を入力します。
- 注:** これはサーバーのマシン名であり、Intelligence Server の定義名ではありません。
- 8 **[OK]** をクリックします。

RDW ユーザ、ユーザグループ、およびセキュリティの役割

ユーザおよびユーザグループは、以下の既定権限であらかじめ定義されています。これらの権限は、プロジェクトソース内のすべてのプロジェクトに適用されます。これらのユーザは、ユーザマネージャを通して管理されます。

セキュリティの役割は、それぞれ各プロジェクトに適用され、プロジェクト設定の一部として管理されます。

注: ユーザアカウントまたはセキュリティの役割を作成する手順の詳細については、『MicroStrategy Administrator ガイド』の「ユーザマネージャ」セクションを参照してください。

ユーザ

Administrator – これは MicroStrategy Desktop と RDW Web の両方のプロジェクト管理者です。このユーザは、すべてのオブジェクトレベルセキュリティをバイパスします。

ユーザグループ

注: 各ユーザアカウントはドリル、並べ替え、ピボット、および Desktop の表示モードの変更を行えます。

Retek Report Viewer – このユーザグループは、RDW Web および MicroStrategy Desktop で検索、ユーザ設定の変更、印刷、およびレポートの実行を行えます。

Retek Web Reporter – このユーザグループは、Report Viewer 権限を継承し、RDW Web で並べ替え、表示モードの変更、ドリル、および履歴の表示を行えます。

Retek Web Analyst – このユーザグループは、Web Reporter 権限を継承し、RDW Web で新規レポートの作成およびオブジェクトの削除を行えます。

Retek Desktop Reporter – このユーザグループは、Web Analyst 権限を継承し、レポート、テンプレート、フィルタ、メトリックなどのレポートオブジェクトの作成、保存、修正をそれらのプロファイル内で行えます。

System Monitors – このグループにはプロジェクトレベルの継承した権限はありませんが、このグループのすべてのユーザはアドミニストレーションフォルダに対する表示権限を持っています。これらのフォルダはリポジトリ内のウェアハウス、接続、ユーザ、キャッシュ設定を監視します。

System Administrator – このグループは、プロジェクト管理者のすべての権限を継承します。Administrator および Web Administrator は、このグループの一部でなければなりません。

セキュリティの役割

Administrator – このセキュリティの役割は、特定のプロジェクトに対する管理者権限をユーザまたはユーザグループに与えます。

Architect – このセキュリティの役割は、スキーマレベルオブジェクトの作成および修正を行うための特定のプロジェクトに対する権限をユーザまたはユーザグループに与えます。

Power User – このセキュリティの役割は、パブリックレベルオブジェクトの作成および修正を行うための特定のプロジェクトに対する権限をユーザまたはユーザグループに与えます。

Normal User – このセキュリティの役割は、ユーザまたはユーザグループで定義された権限しか持っていません。すべてのユーザは、特に指定がない限り、既定で Normal User になっています。

付録 A 時間

対象期間 (4-5-4)

RDW は、小売 4-5-4 カレンダーをサポートします。会計 4-5-4 カレンダーは、RMS および他の Retek アプリケーションがサポートするカレンダーであり、RMS からの抽出により RDW で入力されます。4-5-4 カレンダーは、RDW の MicroStrategy 中間層を介して時間ディメンションを表示するときに使用される既定カレンダーです。

対象期間 (13 期間)

13 期間カレンダーは、この GA 製品で新たに導入されたものであり、RMS ではサポートされていません。クライアントが 4-5-4 カレンダーの代わりに 13 期間カレンダーの使用を選択した場合、クライアントは 13 期間時間によるフラットファイルを提供するか、サンプルの 13 期間時間フラットファイルを使用できます。RDW インストールの間に、ETL スクリプトにより、このファイルでの時間ディメンションが入力されます。中間層アプリケーション内では、13 期間の用語に準拠するために [月] に対するすべての参照を手動で [期間] に更新する必要があります。

注: RDW を更新して 13 期間時間でレポートするには以下を実行します。

- 1 時間ディメンションテーブルを更新します。(詳細な手順については、『Retek® Data Warehouse 10.1 データベースインストールガイド』を参照)
- 2 メタデータ内で、アトリビュート "半年" を削除し、月を参照するオブジェクトの名前を変更します。
- 3 アトリビュート "半年" を削除するには、オブジェクトを強調表示して Delete キーを押します。すべての関係および階層は自動的に更新されます。テーブル TIME_HALF_DM も同じ方法で削除できます。この手順の後にスキーマ全体を更新する必要があります。これは、[スキーマ] ドロップダウンメニューから行います。管理者権限を持つユーザだけが、アトリビュートを削除してスキーマを更新することができます。
- 4 各メタデータオブジェクトの名前を変更するには、オブジェクトを選択して F2 を押します。スキーマオブジェクトフォルダ内のオブジェクトに対する変更を実行したら、スキーマ全体を更新する必要があります。管理者権限を持つユーザだけが、これらのプロジェクトの名前を変更してスキーマを更新することができます。

次の表に、13 期間時間用に名前を変更されるオブジェクトを示します。

オブジェクト名	オブジェクトタイプ
市場測定 (前月)	フォルダ
売上 (前月)	フォルダ
月	アトリビュート
前月	アトリビュート

オブジェクト名	オブジェクトタイプ
月数	基本式
月	式プロンプト
前月	フィルタ
今月	フィルタ
今月 (日)	フィルタ
月次業績トレンド (A)	レポート
キャッシュの月次業績 (A)	レポート
販売員の月次業績 (A)	レポート
週次売上の指定日累計 (ロケーション、月、週) (A)	レポート
月次業績トレンド (A)	テンプレート
キャッシュの月次業績 (A)	テンプレート
販売員の月次業績 (A)	テンプレート
週次売上の指定日累計 (ロケーション、月、週) (A)	テンプレート
年、月、週、日	階層
年、月	階層
年、月、週	階層
年、シーズン、月、週、日	階層
売上高の前月比変更率	メトリック
売上高 (前月)	メトリック
売上単位の前月比変更率	メトリック
売上トランザクション数の前月比変更率	メトリック
月平均頻度	メトリック
売上単位 (前月)	メトリック
売上トランザクション数 (前月)	メトリック
月に対する在庫切れ日数の比率	メトリック
月数	メトリック
デッドネットコストの前月比変更率	メトリック
ネット原価の前月比変更率	メトリック
基準原価の前月比変更率	メトリック
市場売上高の前月比変更率	メトリック

オブジェクト名	オブジェクトタイプ
売上トランザクション数の前月比変動	メトリック
純ネット原価の前月比変更率	メトリック
売上単位の前月比変動	メトリック
売上高の前月比変動	メトリック
純ネット原価の比較 (前月)	メトリック
市場売上単位 (前月)	メトリック
デッドネットコスト (前月)	メトリック
市場売上高 (前月)	メトリック
市場売上高 (月)	メトリック
ネット原価の比較 (前月)	メトリック
基本原価の比較 (前月)	メトリック
デッドネットコストの比較 (前月)	メトリック
日数 (月)	メトリック
ネット原価 (前月)	メトリック
月次平均利益	メトリック
純ネット原価 (前月)	メトリック
基準原価 (前月)	メトリック
月次平均売上高	メトリック
指定日までの月	トランスフォーメーション
前月	トランスフォーメーション

付録 B 子要素アイテム

子要素アトリビュート

RDW インストールの一部として、最初の 5 つの子要素タイプは、DIFF_TYPE_DM ルックアップテーブル、およびアトリビュートを指すアトリビュートの名前の中で、ハードコードされています。インストールでは、Retek Merchandising System 内であらかじめ定義されている子要素タイプの初期セットが照合されます。その結果、残りの子要素タイプおよび対応するアトリビュートは維持され、クライアントが後から自由に定義できます。

次の表は子要素のリストです。

DIFF_TYPE_KEY	アトリビュート名
1	サイズ
2	カラー
3	風味
4	香り
5	パターン
6	子要素 6
7	子要素 7
8	子要素 8
9	子要素 9
10	子要素 10
11	子要素 11
12	子要素 12
13	子要素 13
14	子要素 14
15	子要素 15
16	子要素 16
17	子要素 17
18	子要素 18
19	子要素 19
20	子要素 20
21	子要素 21
22	子要素 22
23	子要素 23

DIFF_TYPE_KEY	アトリビュート名
24	子要素 24
25	子要素 25
26	子要素 26
27	子要素 27
28	子要素 28
29	子要素 29
30	子要素 30

商品システムに追加される個々の追加子要素タイプにより、RDW 内のアトリビュート名を更新し、新しい子要素タイプに適した名前にすることができます。これは、以下の手順によって行われます。

アトリビュート名の更新:

- 1 [スキーマオブジェクト/アトリビュート/子要素] フォルダを開きます。
- 2 目的のアトリビュートを選択します。最初、これは子要素 6 になります。
- 3 F2 を押して、既存の名前に新しい名前を上書き入力します。
- 4 完了後、[スキーマ] ドロップダウンメニューから [スキーマの更新] を実行し、プロジェクトを更新します。

子要素タイプの変更

商品システム内には、既存の子要素タイプを変更する機能が備わっています。子要素タイプを変更するには、子要素タイプの名称を変更するか (たとえば、子要素タイプ "サイズ" を "ファッションサイズ" に変更)、または子要素タイプをすべて削除します。

注: 利用する可能性のある 30 種類の子要素タイプが、RDW 内にアトリビュートとして定義されています。商品システムにまだ存在していないものも含まれています。上記の表に示したように、これらのアトリビュートは、通常、DIFF_TYPE_KEY に対応する番号で名前が付けられています。

商品システム内で名称を変更すると、バッチプロセスによって PROD_DIFF_TYPE_DM テーブル内の名称列が新しい名称に更新されます。MicroStrategy プロジェクト内のアトリビュート名は、上記の手順に示したアトリビュート名の更新を完了することにより、手動で更新する必要があります。

商品システム内で子要素タイプを削除すると、バッチプロセスによって PROD_DIFF_TYPE_DM テーブル内の名称列が新しい名称に更新されます。MicroStrategy プロジェクト内のアトリビュート名は、上記の手順に示したアトリビュート名の更新を完了することにより、DIFF_TYPE_KEY に対応する汎用名に手動で更新する必要があります。(たとえば、[カラー] を削除した場合、[カラー] アトリビュートの名前を [子要素 2] に更新します)